

「いつもクリアな目を持っているように。自分の叡智を信じるように。  
そして生死に関わる問題として演奏しなければならない。」

# イヴリー・ギトリス ヴァイオリン・リサイタル

## Program プログラム

下記の作品群を中心に、イヴリー・ギトリスが  
お客様に届けたい曲を選んで演奏します。

### マエストロ's チョイス!

クライスラー小品集「愛の喜び」「愛の悲しみ」

「美しきロスマリン」など

ドビュッシー/ヴァイオリン・ソナタ

ショーソン/詩曲

ベートーヴェン/ヴァイオリン・ソナタ第5番“春”

モーツアルト/ヴァイオリン・ソナタ

ブロッホ/ニーダン ギトリス/即興曲

etc. etc...

※実際の演奏曲は当日発表となります。

2010

**12/19(日) PM1:30開演**

**愛知県芸術劇場コンサートホール**

S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000 C¥4,000 学生¥2,000 (税込)

主催: 中京テレビ放送 企画・運営: 中京テレビ事業

お問い合わせ  
お申込み

**中京テレビ事業 ☎ 052-957-3333**

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F (営業時間／月～金 AM9:30～PM5:30 土・日・祝日休業)

インターネットからでもお申込み頂けます。  
<http://cte.jp> 中京テレビ事業 検索

**5/29(土) AM10:00~  
発売開始!**

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業(学生券)添てお申込みください。公演の3週前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願い致します。

\*プログラム内容等変更になる場合がございます。予めご了承ください。 \*未就学児童のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

チケットぴあ……(Pコード:102-865)0570-02-9999 栄ブレチケ92(旧三越PG)……052-953-0777

愛知芸術文化センターPG……052-972-0430 中日サービスセンター(中日ビル1F)……052-263-7282

ローソンチケット……(Lコード:40725)0570-084-004 イープラス……eplus.jp 他有名プレイヤー



## Profile

イヴリー・ギトリス(ヴァイオリン)

*Ivry Gitlis, Violin*

1922年イスラエルのハイファ生まれ。5歳でヴァイオリンを始め、7歳で最初の演奏会を開く。演奏を聴いたフーベルマンに見出されてフランスに渡り、12歳でパリ音楽院を首席で卒業。その後もジョルジュ・エヌスコ、ジャック・ティボー、カール・フレッシュ等、名ヴァイオリニストの下で研鑽を積む。1951年ロン=ティボー国際音楽コンクールに入賞、56年にアメリカデビューを果たし、超絶技巧の天才ヴァイオリニストとして世界的な賞賛を博し、活躍の舞台を全世界に広げる。

19世紀の演奏様式、音楽感を伝える希少な演奏家で、カザルス、ハイフェッツ、ゼルキン、オーマンディ、セル、ホーレンシュタイン、クリュイタンスなど歴史的な名匠と共に演奏を行い、「別府アルゲリッチ音楽祭」の共演で有名なアルゲリッチを始め、バレンボイム、メータ、インバル、デトワ、パリ管弦楽団、ニューヨーク・フィル、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、コンセルトヘボウ管弦楽団、レニングラード・フィル等々、多くの一流演奏家から招聘を受けている。

1950年から開始したレコーディングの経歴も豊富で、ACCフランス・ディスク大賞、米ヘラルド・トリューン年間ベスト・レコーディング等各国で高い評価を得ている。日本では、アルゲリッチ音楽祭ライヴ・ソナタ集、カザルスホールの無伴奏DVD等独自のリリースも多い。最近では名盤「24のカブリース」CD、チャイコフスキーアコス曲DVDもリリースされた。ルガーノ音楽祭(スイス)でのアルゲリッチとの共演、ロンドン、南アフリカ、アメリカ、デンマーク、ウクライナツアーや精力的にこなすなど、依然現役最高齢のヴァイオリニストは健在である。

# ギトリス讃・人間のための音楽

今やギトリスは一人の名ヴァイオリニストという存在を超えて、音楽とは何か、名演とは何か、いやそもそも演奏の喜びとは何か、そんな音楽活動の原点へと私たち聴き手を導く悟りの哲人のような巨匠となっている。豪放磊落というべきか、天真爛漫というべきか、ヴァイオリンを手にしたギトリスは余人の想像をはるかに凌駕した自在かつインスピレーションあふれる演奏で私たちを驚かせるが、それはまた何と美しく、輝やくばかりの生命力にあふれた絶品であることだろうか。私たち聴き手は人それぞれに多様で多彩な音楽経験を重ね、それらを日々の心の糧とも憩いとも慰めともしてきているはずだが、ギトリスが切り開く世界は他に類例を求める事のできない未知の空間であり、そこには私たち聴き手が初めて知る音楽の形、いや感動の姿があるといつても決して過言ではないのである。

感動の質を原点から問い合わせるギトリスの演奏活動は、今、アルゲリッチをはじめとするあらゆる名演奏家たちを取り込みながら、静かな渦となって音楽界に新しい感動のあり方を訴えかけようとしている。確かに20世紀は名演奏家たちの時代であり、私たちも数多くの巨匠たちの至芸に接し、感動という宝を分け与えられてきたが、ギトリスのヴァイオリンが聴かせる演奏は、何かが大きく異なる。もちろんそれを、名演、名人芸、至芸、ヴィルトゥオジティなどといった賛辞で褒め称えることは容易だが、ステージ上のギトリスの演奏を前にしてしまうと、そんな言葉も意味を失い、ただそこで花となる作品に浸る、その喜びだけで幸福になってしまふから不思議である。それは文字どうり生きた音楽だけが持ちうる音楽の美しさと強さのなせる技であり、聴き手はギトリスから放射される感動のエネルギーを両手に、今まで予想だにしたことのない別世界への旅を続けてしまうのである。

だが、ギトリスは何も最初からこうだった訳ではない。エネスコ、ティボー、フレッシュといったヴァイオリン演奏史上の大巨匠たちの薰陶を受け、カザルス、クリュイタンス、セルといった音楽家たちと共に演を重ねては「パガニーニの再来」といった評価まで欲しいままにしてきたヴァイオリン界の王道を歩む巨人であった。だが、1990年前後、おそらく彼の70才前後から、ギトリスは神の声を聴いたのか、ヴァイオリンをもつ魂の詩人となり、ヴァイオリン奏者である以前にギトリスとなつたと言ってよいであろう。そして彼のカンタービレは、時に詩人のため息とも、愛の言葉とも、感嘆の声ともなって聴き手の心を魅了し始め、天地がひっくり返るほどの感動を与え始めたのである。

それはあざとい予想や予感をはるかに超えた予測不能のギトリスのみに可能な営みであり、音楽がまさに無垢なる妖精の歌にも似た美しさで再現されていく奇跡のような演奏の数々となつたのである。

今年ギトリスは88才となる。88才となって天使の声を聴かせ得る演奏家などギトリスただ一人である。ギトリスの演奏を前にして私たちが抱く感慨は一体何であろうか。

「はじめに音楽ありき!」…近いが、おそらく充分ではないだろう。「はじめに人間ありき!そして最後にも人間ありき!」なのではないだろうか。人間のための音楽とは何か…このことを今一度、ギトリスの演奏を耳にして私は確認したいと思う。

諸石幸生(音楽ジャーナリスト)